

高知医療再生機構は 女性医師の 復職をサポートします



あなたのチカラを高知で

出産・子育て・病気療養・パートナーの転勤、留学あるいは介護などによる中断を、どうマネージメントするかがキャリア形成には大切です。一度仕事を離れて復職しづらさを感じた時、将来の自分の「ありたい姿」を目指してライフ・キャリアを再設計してみませんか。高知医療再生機構には女性医師の復職を支援する制度があります。ぜひ一度ご相談ください。

お問い合わせ

一般社団法人
高知医療再生機構

〒780-8570 高知市丸ノ内1-2-20 高知県庁本庁舎4階
TEL 088-822-9910 Mail info@kochi-mrr.or.jp

高知医療再生機構のウェブサイト

高知で働く女性医師の復職支援

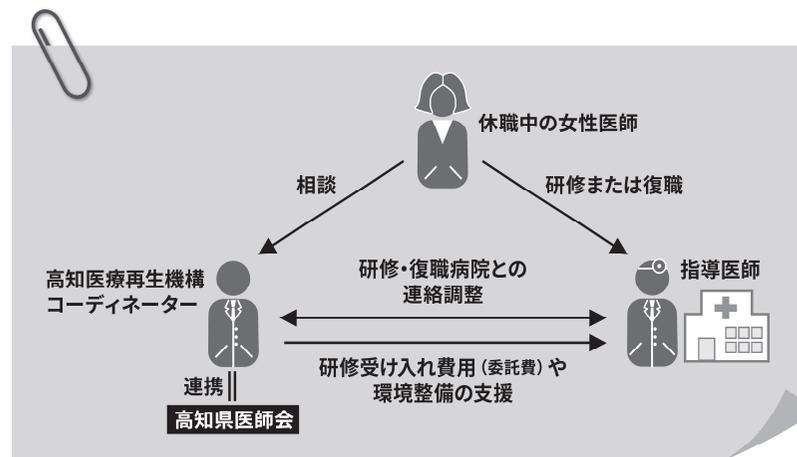


高知医療再生機構 検索



高知医療再生機構でのサポート体制

- 高知医療再生機構への相談料は無料
- 復職するための研修先病院との調整
- オーダーメイドの勤務パターンでの就労が可能
- 診療科目の選択肢が増え、臨床への復職がスムーズ
- コーディネーターがサポート
- 就労後のフォローアップもあります



高知医療再生機構は、女性医師の復職を支援しています。サポートの中心は復職のための研修環境整備ですが、復職のためのあらゆる相談に可能な限り対応したいと考えています。復職には家族や職場の支援が一番ですが、高知医療再生機構のコーディネーターのサポートも、きっとあなたのチカラになれるはずです。お気軽にご相談ください。

一般社団法人
高知医療再生機構

〒780-8570 高知市丸ノ内1-2-20 高知県庁本庁舎4階
TEL 088-822-9910 Mail info@kochi-mrr.or.jp

受け入れ可能診療科

第一内科

第二内科

第三内科

老年病・循環器内科

神経内科

小児科

精神科

皮膚科

放射線科

外科 (1)

外科 (2)

麻酔科

産科婦人科

整形外科

眼科

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

脳神経外科

泌尿器科

歯科口腔外科

病理診断科

総合診療部

検査部・輸血・細胞治療部

PETセンター

病理診断部

高知大学女性医師キャリア形成支援プログラム

- woman doctor career program -

趣旨

近年医学部卒業生並びに医師免許取得者の全体にしめる割合が、ますます大きくなりつつある女性医師に対して、その豊かな医療の担い手である医師としてキャリア形成と、妊娠、出産といった女性特有の事項との両立を支援するため、従来は画一的であった高知大学医学部附属病院における診療に従事する医師の受け入れ体制について再考し、その受け入れ制度に関して定めています。



受け入れ制度の概要

短時間での勤務により、キャリアの継続・再開を希望する医師を受け入れるとき

短時間勤務を希望する医師は、国立大学法人高知大学非常勤職員就業規則（以下「就業規則」と表記）に定めるパートタイム職員（医員〔指導医〕）、医員〔レジデント〕として雇用し、1時間当たり給与1406円を支給します。

勤務時間については1日8時間以内かつ週30時間以内とし、本人の希望と受け入れ診療科との間で協議し、別に定める様式により担当部局へ雇用の申請をします。

そのほか、就業規則ならびに国立大学法人高知大学非常勤職員給与規則（以下「給与規則」と表記）に定めるところによります。

本学は、給与規則に基づき申請に対して通勤手当を支給することができます。また命令者が雇用された者に時間外勤務を命じた場合、その勤務に応じて超過勤務手当を支給します。さらに、雇用された者が宿日直勤務を希望し、命令者がそれを命じた場合、本学は宿日直手当を支給します。

雇用された者は就業規則並びに関係法令に基づき、勤務時間に応じて、社会保険、雇用保険に加入します。

本制度により女性医師を受け入れた診療科は、そのキャリア形成について可能な限り支援を行うものとし、ます。

医学部 1年生への講義

高知県医師会では、将来医師として活躍する高知大学医学部1年生の皆さんに、「男女共同参画」を軸とした「キャリア」「ワークライフバランス」等について考える機会を持っていただくため、平成23年度より高知大学医学部のご協力をいただき、授業の一コマを利用した講義をおこなっています。



これまで色々と日本が男女共同参画社会の実現に向けて政策を打ち出してきている甲斐もあってか、多少改善されてきていることを学んだ。しかし、世界的に見るとまだまだ日本は下から数えたほうが早いということに少し驚いた。また講義内容がとても興味深いものであったため、この講義を通して女性への理解がさらに深まった。これから自分が家庭を持つ際には、共に協力しあっていくことが今の時代大切だと私は思った。

生物的な問題もあり、男女が完全に平等になることは難しいが、出来るだけ平等になるためには男性だけでなく女性も意識を変えていかなければならないということに衝撃を受けた。今までは男性が意識を変えることが男女平等のための第一歩であると思っていたが、女性ができる範囲で出産、育児とキャリア形成を両立することで、男性の意識も変わっていくのではないかと考えるようになった。

学生からの意見



私自身卒業後は医師として活躍したい半面、子どもを持ち家庭を築きたい思いもあったため、今回の講義はとても興味深かったです。男性が多い職業は女性の産休や育休についての制度が整うまでに時間がかかるかもしれませんが、このように学生の時から男子学生にも男女共同参画について学ぶ機会を設けていただくことは男女差に関する状況の改善にもつながると感じます。

人生設計において"仕事"と"家庭"は切っても切り離せない要素で、家庭の事情により仕事が圧迫されることは周知の事実である。昔に比べると男性側も育児や家事に協力するようにはなってきたが、それでもやはり女性側への負担が大きい。産休・育休制度の普及や産後女性の社会復帰に対する理解は広がっているが、講義内にもあったように、女性の妊娠は完璧に受け入れられているわけではない。男性であるからといって興味関心を示さないのではなく、将来家庭をもつ医師になるときのために、今回の内容への十分な理解をし、パートナーとともに仕事と家庭を両立させていきたい。